



# 謹賀新年

旧年中は、格別のご厚情を賜わり深く感謝申し上げます。

本年も皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

さて、子供がお正月に心待ちにする「お年玉」の起源は何であろうか。

これは、本来お金ではなく、新年を司る年神にお供えしたお餅のお下がりを丸くし「餅玉」として神の魂を与えたものがお年玉です。「たま」とは「魂」のことで「としまま」年魂↓年玉」です。お供え物には、祀った神霊の分霊が宿るとされ、それを頂くことにより、人は力を蓄え新たな一年に備えます。それが後に、目上の者から贈られるお正月のお小遣いになったといわれます。

元々、年二回お盆とお正月はご先祖様をお迎える行事でした。その魂は先祖の魂をお迎えているのです。神棚と仏壇の両方で丁重にお迎え致します。今があるのはご先祖様のお陰です。差し上げるお年玉に、先祖の思い(魂)を込めたいものです。

住職 清涼 晃輝 合掌

## 平成二十九年 年回表

一周忌	平成二十八年
三回忌	平成二十七年
七回忌	平成二十三年
十三回忌	平成十七年
十七回忌	平成十三年
二十三回忌	平成七年
二十五回忌	平成五年
二十七回忌	平成三年
三十三回忌	昭和六十年
三十七回忌	昭和五十六年
四十三回忌	昭和五十年
四十七回忌	昭和四十六年
五十回忌	昭和四十三年
百回忌	大正七年

今があるのは

ご先祖様のお陰

## 少林寺の使命

仏教に基づき、いのちと向き合い、ご縁を大事に、仏様と出会う「少林寺」は、檀信徒・地域の人々の目線で、仏教・仏事を分かり易く伝えます。

一、禅の道場として禅の道を歩みます  
一つ一つ丁寧に、善い行いにつとめ、身と心を正しく整えます。

一、救済に勤めます  
葬儀・法事・先祖供養、法話、祈禱は真心を込めお勤めします。  
悩み苦しみに寄り添います。

一、人々の交流の場となります  
檀信徒・地域住民をはじめ皆が集い、地域に貢献し平和な社会の実現に勤めます。

地域不動のお寺として、あなたの故郷のお寺となり、人生の苦しみ喜びを共に歩み、安心出来る心の拠り所を目指します。

住職 合掌

## 仏の智慧に学ぶ

### 歩歩是道場

(禅林類聚)

Hさんは、震災ボランティアで、避難所のトイレがひどい汚れで驚いた。それからHさんは、瓦礫撤去の合間に、毎日トイレ掃除をした。最初は被災者から不思議な目で見られていたが、次第に「いつもありがとう」と言われるようになった。数日経ったある日、小学生が「僕達にも手伝わせて下さい」と言われた。一緒にトイレ掃除をした。その小学生たちは掃除以外にも必ずトイレのスリッパを揃えて、トイレの美観に勤めた。やがて、大人も感心して、その避難所のトイレはいつも綺麗になった。

一瞬一瞬が大事な修行です。日常の全てが修行の場。心掛け次第でどんな場所も自分を高める道場になります。



## 澤ちゃんの仏教・仏事Q&A

### 卒塔婆とは？

卒塔婆とは、サンスクリット語（インドの言葉）で「ストウパー」と呼ばれ「卒塔婆」「塔婆」と漢字に当て呼ばれています。

卒塔婆は、遺体を埋葬するお墓や塔を指します。釈尊のお墓が起源で、遺体を埋め土饅頭や石をのせたお墓が最初でした。やがて、五輪塔や多宝塔に発展し、現代は代々墓や供養塔があります。五輪塔は「空・風・火・水・地」の宇宙の五大根源を説く塔で、生命は宇宙に還っていく意味をもちます。

墓石の裏に建立する木板の卒塔婆の刻みは、この五大根源を表します。卒塔婆の建立は、善行の功德となり亡き人の供養となる信仰です。〇〇年忌等の節目で、住職が木板の卒塔婆に戒名や経文を書き、お墓に建立し、読経され供養されています。



〇古い卒塔婆は、読経後に墓地の土へ還します。または、読経後に墓地でお焚き上げ（焼却）します。少林寺でお焚き上げ出来ますので、お悩みの方はご相談下さい。

婦人会 活動

● 清掃の奉仕活動

六月十二日 坪井上地区  
八月十八日 坪井下地区  
十二月十八日 中北上地区

● 法要接客のご奉仕

◆ 総供養 (六月十二日)  
国米貞子さん (多田)  
實成尚美さん (岡)

◆ 孟蘭盆大施食会

(八月十八日)  
佐山笑子さん (原)  
原田恵子さん (安清)  
山中敬子さん (福本)

● 禅道場体験のご奉仕

(八月二十二日)  
佐山笑子さん (原)  
保田カツエさん (岩谷)  
田丸ふじ江さん (坪井)

皆様ありがとうございました

梅花流 詠讃歌

六月二十五日、梅花流詠讃歌特派講習会が毎来寺様(真庭市目木)で開催。

講師は、泉福寺ご住職(野口謙治)老師(茨城県)にご指導頂きました。

岡山県第六教区(美作地区)約三十名の御詠歌講員さんが一日み仏様の教えを学ばれました。少林寺講からは五名が参加。

十月二十四日、梅花流岡山県奉詠大会五十周年にあたり、永く御詠歌に精進された(木原怜子さん) (清涼久恵さん) が表彰されました。

また、少林寺御詠歌講としても功績が認められ表彰されました。



\* 御詠歌講員さん募集中

講師 源福寺ご住職 小谷典尚 先生  
毎月 2回 1,500円(1回)  
ご見学ご自由どうぞ。

なむなむ のんのんさま

「家族は宝」

うちのお宝を紹介

原田繁穂さん (安清)  
最近では珍しくなった同居一家 四世代 八人家族



手前の二人は、ひ孫さん

百華ちゃん (小学一年生)

悠吾くん (小学二年生)



お知らせ

ご意見、ご感想、投稿【募集中】

趣味、特技等の発表にお使い下さい

曹洞宗 澤龍山 少林寺

●電話 0868-57-2303 ●住職電話 080-6351-9686

「檀信徒を訪ねて」

「なむなむ のんのんさま」

出ませんか? お気軽にお声かけ下さい

● 天福庵改修工事

少林寺の寺地、津山市中北下（寺岡）一五二八番地に薬師如来を本尊にまつる【金亀山天福庵】があります。このお堂に雨漏りが判明し、屋根瓦の葺替え、天井や床板等の改修工事を行い無事完了しました。施工業者は「出建」さん「大植和男」さんです。

【天福庵の由来】

縁起書は元弘二（南朝年号、一一三三）年三月十八日の夜、後醍醐天皇が院の庄で見られた夢は、此処から西に当り柳の木の本本あり、そこに薬師如来が木の下に御安座になっている。というのである。翌朝になり隣郷に二本の柳のある所はないかと御尋ねがあった。其の時在所の者共の申すに、此処より西大井の庄に二本の柳のある所があります。それは出雲の國から京都や伊勢に通ずる街

道の道端で、伊勢参宮の姉と弟がここで辨当をたべて、弟が箸を地面にたてて、どうか此の箸に根が出て葉が出ていつまでも残るようにとの歌を詠んで立ち去ったその箸が二本の柳となったものだと申し上げた。天皇はその柳の北の山を入念にしらべる様にとのことで、人々が落葉の下までも掻きわけて探したところ、ふくらしの木が地から根くりになりかかっているのを、大入道に小入道という者が引きかえしたところ、その下から薬師如来が現れ出たので、そのことを申し上げたところ、そこに寺を建て、その薬師如来を本尊とせよとのことで翌正慶二（北朝年号、一一三三）年に寺の建立があった。ここまでが天福寺の起源で、ふくらしの木の根つこで本尊様が見つかったので「ふくらし」の「ふく」（福）をとって天福寺としたものであろう。（久米町史）

その後、火災に遭い廃寺となるも本尊は残っています。以後、少林寺を本寺として天福寺から天福庵となり現在の建物となり、岡・寺岡の地域の人々に守られています。この度の改修工事にも岡自治会・寺岡自治会よりご寄付を頂きました。



改修後



改修前



改修前



改修後



墓地造成

● 少林寺霊苑（墓地）造成  
現在の「少林寺霊苑」北側の山林を伐採し（伐採・原田豊さん）、新墓地として整地が終り（施工、山口建設さん・久米建設さん）現在、墓地登記中です。  
平成二十九年度は、墓地の道路の舗装、水道設備等を整備する予定です。また、永代供養塔の建立計画もあり、平成三十年には、墓地の分譲、永代供養塔の申し込みを開始出来るよう進めております。

## 月と生命を考える

志賀 勝

暦づくりには20数年たずさわりの勉強もおなじくらしい期間つづけてきたことになりませう。この間に到達した考え方を講演の形で聞いてもらおうチャンスが2016年の後半にありました。六回の連続講演という形で、月のリズムと月暦の仕組み、月の神話（とくに月の女神をめぐって）、月と歳時（五節供や年中行事、月待ち行事など）、月の文化（俳句や和歌や能や歌舞伎など）、月と生物（とくに海洋生物と月）、月と女性、といったテーマでお話しました。月と私たちのかわりには多様で、日常生活から行事や文化にまでじつに密接に関係しておどろきですが、生命とはなにかといった私たちが存在する根本問題を考える上でも月は欠かせません。ところが、月や季節感が分からなくなつた西暦で生きるようになって百数十年、自然のなかで生きていく実感、自覚はどこかへ置き忘れてしましました。

生命と月が不可分であることを教えてくれるのは海洋生物です。ウナギ（ニホンウナギ）を研究する海洋学者の塚本勝巳さんという方は、産卵をはじめ生態が不明なこのウナギの【追っかけ】をじつに30年にもわたって繰り返し広げました。

彼は、ウナギは新月時期に卵を産んでいるにちがいないと仮説をたてて研究にいそしんだのですが、2008年になつてとうとう卵からかえつたばかりの幼生を発見しました。場所は、私たちから何千キロも離れたマリアナ海溝、そして仮説どおり新月時期の出産が証明されました。私たちに身近なウナギの生態はほんとうにすごいものです。

海洋生物が月のリズムで生きていることがだんだんと分かつてきて、私たちの認識を豊かにしてくれています。では人間はどうでしょう？ 受胎して生命を歩みはじめた赤ん坊は、母体の羊水に全身を浸（ひた）して成長していきます。体のあらゆるところが羊水によつて満たされていくわけです。この羊水とはなんでしょう？ それは海のもののなのです。月がつかさどるこの海のなかで、魚、両生類、爬虫類、哺乳類の進化の過程をぐくぐくみじかい時間でたどつて胎児は人間へと成長していくのです。

こういう胎児の世界を教えたのは解剖学者の三木茂夫さんという方でしたが、かれは自然科学者でありながら「科学」の弊害、危険を警告した人でもあり、自然から遠ざかつた人間の現在を批判した人でした。私たち一人ひとりが羊水のなかにあつて、月のリズムをどのよう受け止めて大きくなつてきたのか、いちどじっくり想像してみたいものです。私たちは羊水のなかに丸まつて、月の夢でも見ていたかもしれませぬ。

<http://tsukigoyomi.jp>

## 「ブックコーナー」オープン

仏教書から絵本、DVDをご覧頂けます。貸し出ししています。ご自由にどうぞ。



絵本寄進  
・楽万真一さん



## お話聞きます

寂しさを感じている方、つらい方、私で宜しければ、お話し聞かせて頂けませんか。いつでも、どうぞ。（住職）



- 電話 0868-57-2303
- 住職電話 080-6351-9686
- メール info@shorinzenji.com

○あなたもお坊さんになりませんか？ ご興味のある方、少林寺住職までお問い合わせ下さい。



毎月修行しております坐禅と写経【覚禅会】は、これまで多くの方々に、体験して頂きました。毎月参加される方、時々参加される方、一度限りの方、申し込みも不要で、気が向くときにご来寺頂いております。今回、「檀信徒を訪ねて」では、覚禅会開催五周年を記念して、平成二十八年十月に参加された五名の方に感想をお願いしました。ご覧頂ければ幸いです。

(住職)

写経と坐禅

私は、少林寺で毎月一回行われている写経と坐禅の会に参加させて頂いています。

写経には、以前から心を寄せていましたが、この度その機会を得る事ができ、お寺の静寂な客殿において、二百六十数文字の般若心経の手本を前にした時は、筆が振るえて写すことのみに気持ち走って居るのが良くなりました。

いつの間にか写経を書いている時は気持ちも落ち着き、日々の生活の中からのき放されており、二時間余りのひと時、すべての煩惱雑念から「無の心」になっている自分に気付きました。これからも写経・坐禅を通して心を見詰めて行きたいと思っています。

(岸光子)



ただ、ひたすらに  
— 覚禅会に参加して —

少林寺の覚禅会に参加するようになって、早四年余り。月一回の朝とても有意義な時間をいただいています。

まず坐禅から始まります。私は今は椅子に坐って行っています。はじめに姿勢を正し、目は一点を見つめ、何事も考えることなく、た

だ呼吸に集中して、終わりの合図を待ちます。合図の前にいつも住職の講話があり、いろいろなお話が聞かれ、楽しみの一つです。静かな時間の中で、まわりの水の音や鳥の鳴き声などが耳に入り、終わった後は、とても心地よく清々しい気持ちになります。

少しの休憩をして写経に入ります。まず、般若心経をお唱えして奉納御写経用紙に筆でただひたすらに一字一字心をこめてお経を写し、最後に願い事と名前を書きみんな普回向を唱えて終了です。

私にとって、普段では味わうことのない心安らぐ幸せなひと時であり、自分を見つめる時間にもなります。これからも続けたいと思っています。興味のある方参加しませんか。

(國米寿美子)

【覚禅会】 毎月第2土曜日 9時～坐禅 10時～写経 ※詳細は12頁をご覧ください。

ご参加お待ちしております。

体感

四年ほど前になるでしょうか。お寺での行事の際、第二土曜日に坐禅・写経をしていますのでぜひお越しくださいとお話があり、私は以前から一度体験してみたいとの思いがあったので参加することにしました。最初、足を組み坐るのですが、うまく組めず膝も痛いし、とても辛い時間でした。その後、椅子での坐禅に変えやっと集中して坐ることが出来るようになりました。

この空間でご住職と共に体感できることをありがたく思います。

ご住職の毎回の法話も勉強になります。写経は印刷したものがあり、それをなぞって書いていくので、思いのほかスムーズに書けました。心静かに集中して書いていくので、願いにつながるような気がします。月に一度、出来るだけ休まず参加しようと思っています。

(國米由美子)

雑感

―『覚禅会』―

初めて覚禅会に参加したのは三年前の冬である。山門に入る時にはそれほどもなかったのに、坐禅を終えて本堂の外を見ると、雪が降り積もり、短時間のうちに靴はすっぼりと埋もれるほどになっていた。印象的なスタートであった。それから、都合のつく限り

参加させてもらっている。

坐禅の作法を教わり、それに従って約三十分間坐る。いつも、「呼吸と姿勢を整えることに集中して、諸々浮かぶことを追い求めていかないこと」と言われるのだが、これがなかなか難しい。しかし、終了を告げる鐘一つが鳴る頃には、何か「スーッ」とした気持ちになるのである。この感じがいい。

そして、何よりも私が好きなのは、坐禅終了前数分のご住職のお話である。その時々のお話を帰宅後もう一度思い起こしてみる時、不思議な幸せを感じるのである。

最近では、アイドル真那

ちゃんの著しい成長に目を細め、覚禅会を通してできたつながりにも魅力を感じている。四季折々の境内の変化を楽しむに、これからも山門をくぐることできたらと願っている。

(小林真佐子)

感謝の一日

毎月第二土曜日の午前、少林寺での坐禅と写経の会に参加させて頂いています。

平成二十四年八月に母を亡くした後、この会を知り、通い出して丸四年になります。

日頃は雑用で忙しくて、坐禅の境地に中々なれないけれど、お若い住職様の教えで、凜とした静けさの中、心を無にする時、うららかに鳥の声、庭石を伝い流れる水の音を耳にしながら、「今、私は生かされている」ことを実感します。

写経も小一時間、無心に筆を進めております。写経はとても脳トシになるそうですね。

月ごとに、お時間と場所を用意して迎えて下さることに感謝です。お仲間がもっと増えて、この幸せな時を分かち合いたいと思っています。

(武村依子)

先日、あるお檀家さんの若夫婦とお話していると「へえ～こんなお便り(少林寺たより澤龍)あるんですね。初めて見ました」と…。(いつもお配りしていますよ。きっとご家族が片付けられるのでしょうか…。)是非、少林寺たより【澤龍】を、ご家族の皆さんでご覧下さい!!また、ご遠方にお住まいのご子息やご親戚にも発送させて頂きますので、お気軽にどうぞ。

● 総供養会

六月十二日、檀信徒ご先祖様の総供養会に約四十名の参列を頂きました。



これまで六月中旬に、先祖供養と田植えの慰労会を兼ねて、読経と会食を営んでおりました。しかし、平成十年頃からO-157対策で慰労会の会食が廃止になりました。

今後、総供養（先祖供養会）は、春彼岸に合わせしてお勤めさせて頂きます。宜しくお願い致します。

次回は、平成二十九年三月二十日（月）です。

● 盂蘭盆大施食会

八月十八日、お盆の大法要に、約六十名の参列を頂きました。浄土真宗本願寺派西楽寺ご住職（菅原昭生）師（島根県）を講師に迎えて、「仏さまのまなざし」と題してご法話頂きましたので、その一部をご紹介します。



先立たれた方々のご恩を偲びつつ、様々な形で繋がりのあつ命の尊さを「仏さまのまなざし」を通して一緒に味わいさせて頂きたいと思ひます。

ところで、自分のご先祖を数えてみたことがありますか。親が2人で祖父母が4人。十代遡ると1024人、二十代で百万人、三十代で十億人を超えます。そして、その先は限りがあり

ません。もしそのうちの一人でも欠けたならば、私は生まれていません。（いのちの夕テ糸）

日に三度の食事で、お皿の上に並ぶ肉・魚・野菜・米は、すべていのちです。私の一つのいのちを今日まで養つたにどれほど多くのいのちを頂いたことでしょうか。（いのちのヨコ糸）

このように私の命は夕テとヨコに数えきれない命とつながっています。

実は、阿弥陀さまのアマダとは数えることが出来ないという意味です。来ないという意味です。アマダの「ア」は、打ち消し語。「ミダ」は「メジャー」や「メーター」と同じ語源で「計る」という意味。つまり、私たちはアマダの命の中に生かされているわけです。

とすれば、「俺の命だから、俺の勝手にして自由だろ！」とは言えません。そして、周りの人も同じようにアマダの命を生か

されているからこそ、お互いに大切に敬い合うのです。

さて、「日本人が美しいと感じる日本語ベスト3」は何でしょうか？

第一位は「ありがとう」。有ることが難しいから、有難いです。また、「ありがとう」の反対語は「あたりまえ」です。つまり、あたりまえではない、又とならざる言葉です。

第二位は「はい」「はい」は相手の言いつことを丸ごと認めて引き受ける言葉。「はい」と言ってもらうと心が通い合う魔法の言葉です。例えば、「今日は暑いですね？」「はい。暑いですね」「時候の挨拶の「はいで相手と心が通い合つ。これが「別に（暑くないよ）」と言われたら、心は断絶です。

第三位は「おかげさま」。自分の気づかないところ、思いも及ばないところで支えられ、守られていた

と感謝する心です。あるいは、何も関わらない（邪魔をしない）という、「おかげさま」もあります。自動車で目的地に着いたとき、車のおかげもありますが、途中ですれ違つた車の運転手が、全盲脇見もせず無事すれ違つてくれたのもおかげさまでした。

この三つの言葉は、自分ではなく相手やまわりからの働きかけを私が受け取って、私が口にして言つ言葉です。相手（他人）に言わせる言葉ではありませんので、ご注意。合掌。



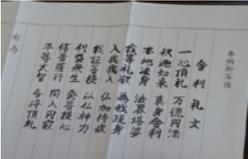
# 主な行事報告

## ● 禅道場体験 ぜんどうじょうたいけん

八月二十二日、第五回禅道場体験を開催し修行者五十七名（子供五十三名、大人四名）、講師一名、スタッフ二十一名、合計七十八名で修行致しました。



坐禅



写経



マジックショー中村李義先生



そうめん流し



写仏



● お月見坐禅会  
つきみぎぜんかい



九月十五日（月曆八月十五日）【中秋の名月】に、里芋団子、きなこ、あんこのお団子をみんなで作りました。特に、里芋団子は絶品です。「昨年の里芋団子を喉が覚えていて」と言われた方もおられました。別名【芋名月】と呼ばれる月夜の少林寺名物になっています。

その後、本堂前でお月様の明りの下で坐禅。その澄んだ心で民話〈田村洋子〉先生「いもころがし」「みみずとつち」「かいこぎつね」を聞き、みんなでお月

見を致しました。参加者三十九名（子供十四名、大人十五名）ワイワイ楽しく出来ました。



十月十三日（月曆九月十三日）【後の名月】は、みたらし団子、ぜんざいをみんなでつくりました。〈Jinヨガインストラクター・前田香織〉先生に習い親子ヨガをしました。ヨガ中に〈演奏者・田中峰彦〉先生が生演奏されたシタール（インドの楽器）を聞きながら三十分程ヨガをすると汗が出ていました。ヨガでリ



ラックスしたところで、月光浴しながら、坐禅で身心を整えます。

そして、お月様を拝み、お団子や御神酒を頂きました。後の名月は、【栗名月】とも呼ばれます。寺裏で採れた栗入りぜんざいは身体も温まりました。また子供たちが焼いてくれたみたらし団子も香ばしくて美味しかったです。

参加者四十七名（子供二十二名、大人二十五名）



## 主な行事報告

### ●特派布教講習会・ 人権学習・教区総会

十月一日、〈中野天心〉老師（長野県）にお越し頂き、美作地区六教区の当番寺院である〈化生寺〉様（真庭市勝山）にて恒例の【特派布教講習会】が開催されました。

特派布教講習会とは、曹洞宗管長様から任命された曹洞宗の布教師が各地へ法話の巡回をされます。日本全国、北南米、ヨーロッパ等七百以上の会場を三十九名の布教師がまわられました。

中野老師は、いのちをテーマにわかりやすくお話し頂きました。

「辛く悲しく苦しむこともある。しかしながら、私の命を生きる。私の命の生かし方を考えていくとき、頭で考えるだけでなく、心から命に向き合ったとき、その命の向かう方向がみえてくるのかもれません。今日はこれからの私の第一日目。」

参加者は、福島鎮夫、河原静嘉、片山勇、住職。

### ●檀信徒研修会

十一月十日、マービーふれあいセンターにて【檀信徒地方研修会並びに人権学習会】が開催されました。講師は、チベットの歌姫〈バイマージンジン〉氏。演題「天に一番近い大地チベットからのお話」

チベットから日本へ嫁いだ経験を基に、ユーモアたっぷりの語り口で、日本とチベット文化の違い、家族のあり方、教育、幸福感や価値観など、チベットからみた日本の素晴らしさをお話し下さいました。

「私は、義母さんを尊敬している。日本のお母さんは完璧な人が多い。多くのお母さんは、子供の世話になりたくないと言われる。八十歳過ぎて自分の事は自分でする。自由が良い。でも何処か寂しさを感じる。何故、自分の子供に意地を張るのか。世話になったらありがとといえばよい。次の世代が苦勞しないと大切な物に気付かない。日本のよい文化を次へ伝えて下さい。」

参加者は、福島鎮夫、河原静嘉、高柳泰雄、片山勇、住職。



少林寺ゆるキャラ決定!!

**澤ちゃん** (たくちゃん)

たくさんのご応募  
ありがとうございました。

詩 岩垣正道師  
境内に建立しています



【少林寺】版画  
真庭市 毎来寺住職 岩垣正道師刻  
本堂内に展示してあります



## 住職のつぶやき

小学生の男子がコンビニで会計をしていた。支払いを済ますと「ありがとうございます」と言った。店員も「ありがとうございます」と言いました。何とも気持ちの良い光景だった。お互い様の心、ここに有り。

昨年十月二十一日鳥取県中部地震発生。私は娘を抱き本堂内に居た。とっさに外へ出ようと扉を開けた時、熊本地震で瓦が沢山落ちた光景が頭をよぎった。暫くすると地震は静まった。幸い被害はなかった。きっと一人だと外に出ていただろう。天災が少ないと言われる岡山県。その気持ちが一番危険だと実感した。身近な命を守るために備えたい。

夜間帰寺し、ふと車のフロントを見ると沢山の小虫の死骸がいた。釈尊は小さな虫を気遣い踏み潰さないように静かにゆっくり歩まれたそう。運転にも仏の心を抱く事の大切さを気付かされる。命を大切に。

## 1月～6月 行事予定

<p><b>1月</b> 元旦～3日 修正会 14 (土) 覚禅会 27 (金) 夜の坐禅会 28 (土) 寺ヨガ</p>	<p><b>修正会</b> <b>元旦～3日</b> 厄払いなど新年のご祈祷します ① 11:00 ご祈祷 ② 14:00 ご祈祷</p>
<p><b>2月</b> 11 (土) 覚禅会 15 (水) 夜の坐禅会</p>	<p><b>寺ヨガ</b> <b>1/28 (土)</b> 旧暦元旦 9:30 新年のお勤め 9:45 ヨガ (1時間半) 講師 スカット☆リンダ師 ※詳細は別紙をご覧ください。</p> 
<p><b>3月</b> 8 (水)～10 (金) 豊川稲荷・可睡齋・日泰寺参拝 11 (土) 覚禅会 20 (月) 婦人会清掃活動 中北下地区 20 (月) 総供養会</p>	<p><b>総供養会</b> <b>3/20 (月)</b> 10:00 ご先祖様の供養会 10:30 法話 常寂光寺ご住職 山縣洋典老師 ※H29年から春彼岸中日に変更します</p>
<p><b>4月</b> 8 (土) 覚禅会 下旬頃 護持会総会</p>	<p><b>豊川稲荷・可睡齋ひなまつり・日泰寺</b> (釈尊御真骨奉安塔) <b>- 住職と行く2泊3日参拝の旅 -</b> <b>3/8 (水)～10日 (金)</b> ※詳細は別紙をご覧ください。</p>
<p><b>5月</b> 13 (土) 覚禅会 下旬頃 棚経 (盆経) 開始</p>	
<p><b>6月</b> 10 (土) 覚禅会</p>	

かくぜんかい

**覚禅会** 毎月第2土曜日 (9:00 坐禅・行茶、10:00 読経・写経)

- 1/14 (土) 9:00 ● 2/11 (土) 9:00 ● 3/11 (土) 9:00
- 4/ 8 (土) 8:00 ● 5/13 (土) 9:00 ● 6/10 (土) 9:00

- ・足の不自由な方は、椅子に座り足を組まなくてもできます。
- ・写経は、椅子と机がございます。
- ・道具もあります。(使い慣れた道具があれば持参下さい)
- ・檀家、年齢性別は問いません。どなた様もお気軽にお越し下さい。
- ・団体の場合はご連絡下さい。個別の日程は要相談。
- ・個人、団体、企業など出張で坐禅会・写経会を致します。
- ・勝手ながら、急な日程変更もありますので事前にご確認頂ければ幸いです。

### 夜の坐禅会

- 1/27 (金) 19:30 旧暦大晦日
- 2/15 (水) 19:30 釈尊涅槃会 (釈尊祥月命日)

### 曹洞宗 澤龍山 少林寺

〒709-4606 岡山県津山市中北上 1150

●電話 0868-57-2303 ●住職電話 080-6351-9686

●メール info@shorinzenji.com

●ホームページ http://www.shorinzenji.com

●曹洞宗澤龍山少林寺フェイスブック https://www.facebook.com/shorinzenji

●晃輝和尚のブログ「覚禅堂」 http://ameblo.jp/seiryo-koki/



フェイスブック



ブログ